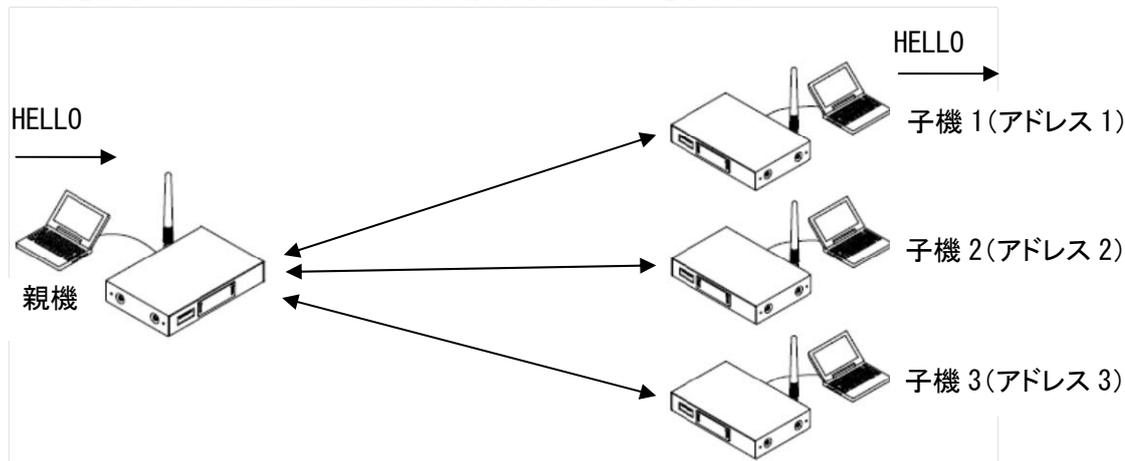


データ透過モード（通信モード 2: コマンド接続モード）

1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。
 設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信、1:N 通信が可能です。
 回線の接続/切断をコマンド（CON/DCN）により行います。
 アドレスを指定することで、複数の通信相手を切替えることができます。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【親機】

```

REG00:00H   (アドレス 0)
REG01:F0H
REG02:00H
REG03:F0H
REG04:00H
REG05:00H
REG06:A3H   (周波数グループ:3 波モード、グループ番号 3)
REG07:05H
REG08:11H
REG09:13H
REG10:40H
REG11:32H
REG12:B4H
REG13:1EH
REG14:00H
REG15:01H   (コマンド認識インターバル:0.1sec)
REG16:32H
REG17:32H
REG18:2DH   (データ透過モード、コマンド接続/切断モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H   (ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H   (RS232C:38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H
REG22:00H
REG23:00H
  
```

【子機 1】	
REG00:01H	(アドレス 1)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:F0H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:A3H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(親機同様)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:2DH	(親機同様)
REG19:40H	(親機同様)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	

【子機 2】	
REG00:02H	(アドレス 2)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:F0H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:A3H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(親機同様)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:2DH	(親機同様)
REG19:40H	(親機同様)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	

【子機 3】	
REG00:03H	(アドレス 3)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:F0H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:A3H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(親機同様)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:2DH	(親機同様)
REG19:40H	(親機同様)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- 上記レジスタ以外に、全無線機の周波数バンドを合わせる必要があります。周波数バンドは *@FBD* コマンドで設定します。(プログラムバージョン 8.3 以降)
- レジスタ設定を反映させるには、*@RST* コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。
- 複数の周波数を使用するグループモード(ここでは 3 波)を使用する場合、再送回数は使用する周波数の 2 乗倍以上の回数にしてください。

4. 通信手順

(1) 親機(アドレス 0)から、子機 1(アドレス 1)への通信

```
[親機] > @CON001[CR][LF]
        < P1[CR][LF]
        < P0[CR][LF] (回線接続 正常終了)
        > HELLO
[子機 1] < HELLO
```

(2) (1)後に、子機 2 への通信

```
[親機] > @DCN[CR][LF]
        < P1[CR][LF]、<P0[CR][LF] (回線切断 正常終了)
        > @CON002[CR][LF]
        < P1[CR][LF]、<P0[CR][LF] (回線接続 正常終了)
        > HELLO
[子機 2] < HELLO
```

《注意事項》

- 子機から親機への接続要求や、子機から子機への接続要求も可能です。
- LED は回線接続中は、C0 のみ緑点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は、送信側の SD が緑点灯、受信側は RD が緑点灯して、送信/受信が終わると C0 以外赤点灯に戻ります。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。